

関連科目、教科書および補助教材	
関連科目	
教科書	適宜プリントを配布する
補助教材等	
学習上の留意点	
<p>経済データの分析では、自然科学の実験と異なり要因の違いに結果の差が表れるかどうかを確かめるには、統計的検定、分散分析などが有効である。実験計画法は複数の要因が存在する際の統計的有意差の確認等で活用できる。そのため次の内容の理解が科目の到達目標レベルとなる。</p> <p>各種統計データを用いた問題を取り扱うため、前半は座学中心、後半はコンピュータを使った演習が中心となる</p>	
担当教員からのメッセージ	
<p>統計データは観測対象の結果を数値として表現したものであり、その結果は様々な要因によって決まるものです。この要因は複数あり、どれがどのように効いているかを知るには本講義の手法が有効です。興味のある方はぜひ履修してください。</p>	

授業の明細			
回	授業内容	到達目標	自学自習の内容 (予習・復習)
1	ガイダンス	本講義の概要を説明する	シラバスを参考に目的を理解する
2	実験計画法の考え方	実験計画法の考え方について説明する フィッシャーの3原則を理解する	講義の内容を復習する
3	特性値、因子の理解	特性値や因子の種類について理解する	講義の内容を復習する
4	実験データの分解	実験データの解析に必要な「分解」の考え方を理解する	講義の内容を復習する
5	一対比較	一対比較、乱塊法、ラテン方格などについて理解する	講義の内容を復習する
6	2因子実験(1)	繰り返しなしの2因子実験について	講義の内容を復習する 演習問題を解く
7	2因子実験(2)	繰り返しありの2因子実験について	講義の内容を復習する 演習問題を解く
8	完全実施要因計画	2 ⁿ -型完全実施要因計画	講義の内容を復習する 演習問題を解く
9	主効果モデル	主効果モデルについて	講義の内容を復習する 演習問題を解く
10	交互作用モデル	交互作用モデルについて	講義の内容を復習する 演習問題を解く
11	一部実施要因計画	一部実施要因計画について	講義の内容を復習する 演習問題を解く
12	直交表	直行表について	講義の内容を復習する 演習問題を解く
13	分散分析	分散分析表	講義の内容を復習する 演習問題を解く
14	復習	これまでの復習を行う。	講義の内容を復習する 演習問題を解く
期末試験			
15	まとめ	期末試験の解説とともに、全体の学習事項のまとめを行い、それを理解できる	
総学習時間数			90 時間
講義			30 時間
自学自習			60 時間